

| | | | |
|------|-----------|----------------|--------------------------------------|
| よみがな | もりやす としひさ | 専門領域・ | ◆文学・芸術 |
| 氏名 | 守安 敏久 | 専門分野・ 研究テーマ | ◆日本近代文学, 現代演劇・映画 ◆幻想と笑いの研究, メディア論 |

〔専門はこのような内容の研究や実践です〕

主たる専門は日本近代文学ですが、作家たちの中には、文学だけに閉じることなく、演劇・ラジオドラマ・テレビドラマ・映画など、あらゆるメディアを横断しながら創作活動を展開した作家たちがいます。その代表的な作家として、安部公房・三島由紀夫・寺山修司が挙げられます。作家たちがそれぞれのメディア特性をどう意識しながら、その可能性を押し広げていったか、というその実験的な創造の足跡を追究し、同時にメディアの有する芸術的かつ教育的役割を考察しています。現在はとりわけ寺山修司の映画・演劇や放送作品の研究をしています。

また文芸作品における「奇妙で風変わりな」幻想的な要素や、不自然な珍妙さが生み出す「笑い」の要素について、その発生の力学を、研究しています。

〔このような方法で研究や実践を行っています〕

実際に映画や演劇を見にいくとともに、その文学テキスト（シナリオや戯曲など）を読み込み、作家がいかに文学を「立体化」していくか、という作品創造の「場」に受容者として立ち会うことを心がけています。特に演劇は複製が効かない、一夜限りの「祝祭」といった性格を持っています。すぐれた舞台に出会うことは、「もうひとつの人生」を生きたと同じくらいの濃密な教育的体験となります。

また地道な文献研究はもとより、作家のゆかりの地に伝記的な調査に赴くこともあります。風土が生み出す作家の特性は、作品にたいへんな力を及ぼすことがあります。地元図書館で作家の意外な事実を発掘して驚いた経験などもあります。

〔学生への授業、学生との交流などで普段このようなことを意識しています〕

文学作品でも映像作品でも、テキストをしっかりと読み込み、作家の創造作業を的確な「言葉」で説明し、それを通して思考したことを自分の「言葉」で伝達できるような指導を心がけています。

ジャンルを問わず、できるだけ多くの作品にふれる中から、好きな作品・好きな作家を見つけ、自ら進んで考察へと踏み出していけるような、自主的・能動的な姿勢を身に付けるよう、指導していきます。

〔宇都宮大学教育学部で学ぼうと考えている人（高校生）へのメッセージ〕

映画や放送作品、あるいはマンガなど、サブカルチャーと呼ばれる領域も、いまや日本を代表する国際的な文化となっています。日本近代文学で夏目漱石や森鷗外が古典となっているように、映画やマンガにも古典があります。黒沢明・小津安二郎・溝口健二の映画や手塚治虫のマンガなど、現代に生きる古典作品についてもふれてみましょう。必ずや新しい発見があるはずです。

〔その他〕

文学はもとより、映画や演劇も、ただ感性で受容するだけではなく、言語を通して認識し、思考していきます。広い意味での言語文化を、ともに探求していきましょう。